

自己評価公表シート（2020年度）

認定こども園 ルーテル学院幼稚園

2021年9月

1. 本園の教育目標

「神と人から愛され、ただし、明るい、元気な子ども」を育む。

2. 本園の教育・方針

- ◆ キリスト教主義による人間形成に重きをおきながら、0歳から就学前までの子どもに一環した教育・保育を行う。「神と人から愛され、ただし、明るい、元気な子ども」になって欲しいとの願いをこめ、一人ひとりの子どもを大切にする教育・保育を進める。
- ◆ ささまざまな環境を通して豊かな遊びの中で、創造性、自主性、社会性を育てる。
- ◆ 恵まれた環境の中で、全身を使った豊かな遊びから年齢に応じた「からだづくり」を行い、『食生活』を重んじ、基本的な生活習慣を身につける。
- ◆ 友だちや保育者との関わりから、国籍・興味・発達など一人ひとりの違いを受け入れ、自分よりも小さな（人だけでなくすべてのもの）他者に対しても思いやりのある心を持つ子どもに育てる。
- ◆ 豊かな絵本との関わりを大切に、様々な出来事の中で感じたり、考えたりしたことを素直に表現することができる子どもを育てる。

3. 評価によりみえてきた現状、課題

教育・保育目標、 方針及び 保育 研究	・園の理念や方針は職員全体にほぼ理解され、保育計画、実践に活かされている。しかし、計画が子ども主体になっているか、必要に応じて見直しがなされているかについては、まだ充分ではないため今後さらなる研修が必要である。 ・園全体の話し合いは時間の確保が難しい面もあったが、学年ごとに話し合うという方法をとったことでより具体的に意見の交換ができた。
---------------------------	--

保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室の整理整頓への意識は担任によって差があるため一人ひとりの意識を高める必要がある。 ・既存の施設、環境を保育に活かすことはできているが、子どもが遊びを選ぶという点に於いての環境構成は、室内も園庭もさらに工夫していく必要がある。 ・コロナ禍で、保育室、玩具の消毒は可能な限り行った。
保育内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの個性、違いを理解した上で、それぞれに合った対応を心がけ、関わることができた。 ・季節によって構内散歩や園外保育等を多く取り入れ、自然に触れる機会を持ち季節感を味わう場を持つことができた。しかし、新しい活動を計画し試みる努力が足りなかった。 ・子どもの様子を観察し状況を見ながらの関わりを心掛けることで子ども同士の育ちを大切にすることができた。
保育者の役割・質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体で集まる時間を確保することはあまりできなかったが、保育終了後、その日の子どもの姿を報告し合うことで共通理解を図ることができ、対応に活かすことができた。 ・職員会議で新任保育者の悩みを共有し一緒に考えることで他の保育者も子どもと関わる際に何が大切か改めて考えることができた。 ・コロナ禍で、研修会の機会は減ったものの、WEB研修という新しい研修のあり方に参加することができたのは良かった。園内で研修を受けることができ積極的に参加できた。 ・毎朝の職員の集まりで礼拝し聖書の話しを聴く事で、キリスト教保育理解、意識の向上に繋がっている。
子育て支援・保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガや子ども同士のトラブルなどは丁寧に保護者に伝えているが、園での様子を伝えるという意味では充分ではなかった。 ・コロナ対応で園行事が縮小・中止となったため、保護者が園での子どもの様子を見る機会が減った。そのため、クラスだよりに写真を多く載せることやポートフォリオなどで子どもの姿を伝えるようにした。 ・未就園児への情報発信は充分にできていないため、ブログの活用も含め発信の仕方を検討していく必要がある。
地域・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に向けての情報発信はもっと積極的に行う必要がある。 ・今年はコロナ禍で交流行事が中止になり少なかった。 ・特別な支援が必要な園児に関しては、療育機関と連携を取り可能な限り情報を提供し合っている。

運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・守秘義務の徹底、園長への報告・連絡・相談は速やかに行われている。 ・連絡、報告の流れが出来ているため、園長・職員が危険な場所を把握し、安全管理・衛生管理はできている。 ・事故災害マニュアルの整備は今後更に整えていく必要がある。
------	--

4 総合的な評価結果

- ◆ 自己評価を定期的に行うことで自己分析にも繋がり、それぞれが課題意識をもって実践に臨むことができるようになり、評価が概ね良好になってきている。しかし、時間の確保が難しく全職員での会議、または園内研修を充分に行えていないことは課題である。
- ◆ 職員間の共通理解を図るため、連絡ノートを取り入れるなどの試みを行っており改善はされているものの、子ども理解、保育内容の見直しなどについては充分とはいえないため、会議・園内研修の時間を確保する工夫が必要である。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式が求められる中、園の在り方も大きな変化が求められ模索が続いた。行事の中止も多かったが、その中でも職員で話し合い新しい行事の在り方等を考え実践したことは、今までのやり方を見直す結果となった。
- ◆ 地域に向けての情報発信が希薄なため、もっと積極的に発信していく必要がある。